

山田めぐみさん（西福岡高校 商業科 平成12年卒）**現在：有田校区子ども会育成連合会会長、本校PTA広報委員長**

福岡講倫館高校の前身である西福岡高校を卒業され、現在、本校PTA広報委員長を担当していただいています。また、有田校区子ども会育成連合会会長を6年間務められ、この4月から7年目を迎えられます。昨年は、福岡市青少年健全育成奨励賞を受賞され、福岡市子ども会育成連合会より永年活動者として奨励賞を受けられました。



そんな山田さんは、高校生活を振り返って自分は人見知りで、自分から前に出ていきリーダーをするようなタイプではなかったと、おっしゃられています。では、なぜ、6年間も会長として取り組み、永年活動者として表彰されたのでしょうか？と疑問を持ちました。インタビューをさせていただき、わかったことを2つにまとめてみます。

一つは、山田さんは何事も楽しくする！と努められていることです。楽な事とは言えないけれど、自分が楽しめるように企画・運営されているコツは、一緒に仕事をしていくスタンスで楽しみを見つけること。山田さんは、相手が抱える一人で行うことの負担や不安を自分の事のように思い、「大変かもしれないけど、楽しいかもしれない。どうせやるなら、楽しまないで損」と考え、一緒にやってきた仲間がいたからこそできたとおっしゃいます。昨年、コロナ禍でいろんな子ども会の活動が自粛されている中で、新規イベントを起こされています。有田校区子ども会育成連合会で開催した縁日イベント「ありたっ子フェスタ」開催は、子どもが家の中で我慢して過ごしているのを見て、どうかしてあげたかったからという動機だそうで、子ども達が喜んでいる姿に、やってよかったとおっしゃっていました。

二つは、山田さんの深い地域愛です。先日行われた地域の避難訓練では約200名の検温を通して、たくさんの方々を知ることができていることに気づき、楽しく思われていたとのこと。娘さんに、楽しそうに検温する人はいないよと言われたそうですが、「横のつながりが大事」と語られる山田さん。自分自身も様々に支えてもらっている地域のために、自分にできることはやっていきたいとおっしゃっていました。しかし、子ども会のお仕事はそろそろ終わりにしようと思っただけのこと。理由は、小学生の子どもがいらっしゃる方が担当することで、時代の変化などに合わせて活動が行われていくことが大事だからと、子ども会が地域を繋げる一歩としての役割も語ってくださいました。

夢、目標は何かありますかと質問しましたら、「家族みんな健康で元気で周りの人も元気で笑顔でいれたらいいな」と。子ども会の必要性も「安心・安全・あたたかい有田の町」のためと、子ども会に参加していないお子様も増えているところで、地域で繋がる大切さを防災の面からも説いていらっしゃいました。町で出会う方々から手を振ってもらえることを嬉しそうに語る姿は、私が幸せをシェアしてもらっている感じがしました。

東北大震災後に、支え合うまちづくりの必要性が言われている昨今です。そんな中、自分が助けられていることに感謝をして率先して取り組んでいる山田さんは、地域の互助・共助の地域包括ケアシステム構築の難しさも、楽しんで解決に導こうと奮闘されているからこそ、奨励賞が贈られているのだらうとお話を伺って思いました。